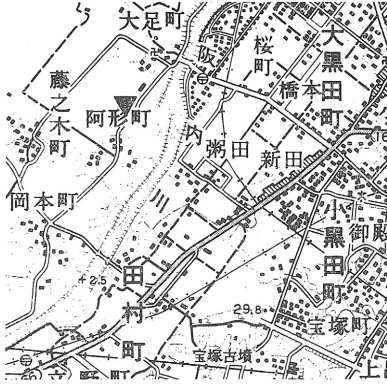


三重・阿形遺跡 あがた

- 1 所在地 三重県松阪市阿形町
- 2 調査期間 一九九一年(平3)九月～一九九二年一月
- 3 発掘機関 三重県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 福田哲也・石川隆郎
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 三世紀・一二世紀～一六世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(松 阪)

阿形遺跡は、松阪市街地の北西約3km、市街地を抜ける阪内川の扇状地扇中央部に位置し、標高はおおよそ一八m程であるが、遺跡の南北で約3mの比高差がある。このあたりは旧飯高郡阿形郷に属しており条里遺構もよく残っている。また、弥生時代から中世までの遺跡が周辺に多く見られる。阿形遺跡の範囲は約六万㎡に及ぶが、今回の調査は県営圃場整備事業に伴うも

ので三五〇〇㎡について調査した。

検出した主な遺構は、弥生時代後期に属する環濠四条と、平安時代末期から室町時代後期にかけての集落跡である。中世の遺構は、現在も残る条里遺構に沿うかたちで建物や溝、柵などが検出されている。また、建物に伴う井戸も一六基検出された。

今回の調査地域は宝蔵寺・海道田の二つの小字にわたるが、このうち宝蔵寺については、かねてより地元には中世寺院の伝承があったが、確認できなかった。

中世の遺物は整理用コンテナにして約二〇〇箱出土した。内容的には山茶碗、山皿、土師器皿、土師器鍋などが大半を占めているが、石臼や井戸の底からは木製品も出土した。遺物からみて、一般的集落跡と思われる。特異なものとして、内面に「良」「坤」「乾」などの墨書が書かれたものを含む百数十枚の土師器皿と鉄製羽釜の出土した土坑もあった。

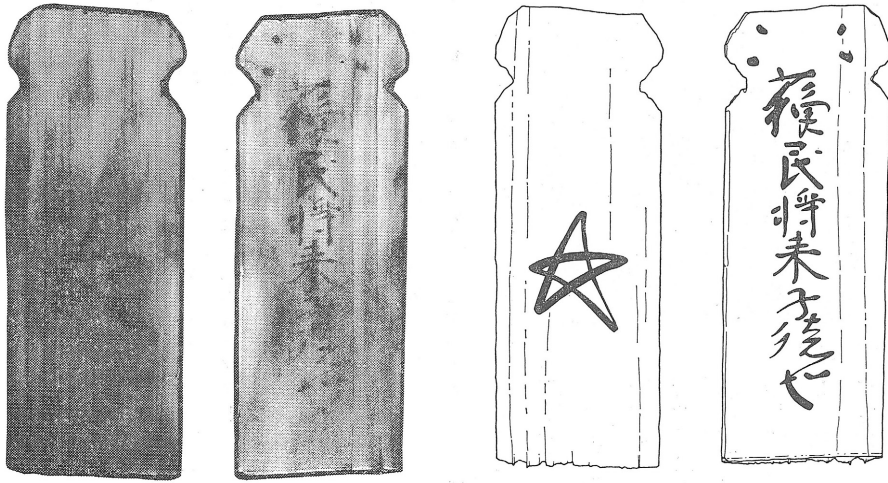
木簡は遺跡北東端に位置する井戸の底から出土したものである。8 木簡の積文・内容

(1) ・「<<」蕪民将来子徒也」

・「<<」 ☆ 「

170×61×3 032

共伴遺物から一六世紀後半に属するものと思われる。杉板を使った呪符木簡であるが、下端は切れ目を入れて折ってある。表面に



「蘇民将来子徒也」の文字が墨書され、裏面には安倍晴明判のセー
マンが記してある。また、表面の文字の上部には墨痕が四カ所、四
点の中心に向かうかのように記してある。セーマンは初筆が最上部
から始まり、左下に下がっていき、終筆が再び最上部に戻る一筆書
きとなっている。

9 関係文献

三重県埋蔵文化財センター『ヒタキ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほ
か』（一九九一年）

（福田哲也）